



# 親子読書



親子で1冊の本を読む親子読書。親子読書は、親が子に読み聞かせたり、子が親に読むのを聞いてもらったり、もしくは、お互いが1冊の本を読んだりするなど、方法は各家庭で選んで行います。温かい親子の交流が思い浮かぶ親子読書を紹介します。

## 14ひきのあさごはん

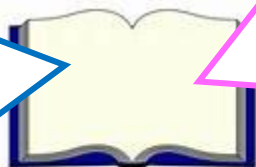
のいちごがおいしそうだったです。ほたるぶくろがきれいだったです。あさごはんをたべるところがおいしそうだったです。(1年生)



表紙にお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、10ぴきの子どもたちが体操している絵と名前がかいてあり、読んでいる途中に「まだねむそうなのはだれ?」「すてきなぼうしをかぶったのはだれ?」など質問が出てくるので、一緒に表紙を確認しながらだれのことなのか探しながら読み進めるのが楽しかったです。(1年保護者)

## リンカーン

リンカーンはどれいをなくそうといいことを言ったのに、その言葉に反対する人がいて、それだけの理由でじゅうでうたれてなくなったのが、とても悲しくていんしょうにのこりました。(4年生)



リンカーンは小さいころからずっとまじめに努力を重ねてきた人でしたね。リンカーンの「今日の努力は今だけのためではない。それは遠い未来のためでもあるのだ。」という言葉が印象に残りました。〇〇ちゃんも、自分のため、人のため、未来のために努力を重ねていきましょう。(4年保護者)

## 世界からボクが消えたなら

飼い猫を世界から消すか、自分が明日死ぬかの二択を出されたときに、自分が犠牲になったところが心に残りました。理由は、自分の飼い猫の「キャベツ」を生き残させるために、自分が明日自ら死んでしまうというところは悲しいけれど、自分より「キャベツ」の方が大切だと伝わったからです。私も共感して、もっとこの本の続きを読みたいと思いました。(6年生)



何かを得るためには、何かを失わなくてはならない。そんな話の展開はドキドキハラハラだったね。本の世界はとってもおもしろいよね。これからもたくさんの本との出会いを通していろいろな感じていってね。(6年保護者)